

- IgE結合能の類似性と交叉抗原性の検討 (in vitro)
- 甲殻類の主要アレルゲンであるトロポミオシンのアミノ酸配列からみた類似性
- エビアレルギー患者を基準とした臨床的交叉反応性
- えび・かに検知法の開発状況

エビアレルギー患者あるいはその保護者に対するアンケート調査

対象;エビアレルギー患者(99例)
平均19.5±2.4歳(平均±標準誤差)

カニ、シャコ、オキアミ、タコ、イカ、ホタテ、アワビを食べたことがあるか?あるならば過敏症状は出現したか?

富川、海老澤ら;アレルギー

エビアレルギー患者が
他の甲殻類摂取時に過敏症状を呈する頻度

カニ	:	64.7 %
シャコ	:	21.4 %
オキアミ	:	26.7 %
イカ	:	17.5 %
タコ	:	20.3 %
ホタテ	:	19.6 %
アワビ	:	9.5 %

甲殻類アレルギー物質表示比較一覧										ND:no data	
日本標準商品分類			現行	十脚目	臨床症状の交叉	IgE結合能に基づく交差反応性		トロポミオシン		ELISA	PCR法
					臨床症状の交叉	関連係数	RAST (IgE)抑制試験	IgE 阻害 Immunoblot	アミノ酸配列の相同性		
7133 えび類 (いせえび・ざりがりに類を除く)			○	○	基準	0.94以上	相互に抑制	交差性あり	基準	検出	エビとカニ分別検出可能
7134 いせえび・うちわえび・ざりがりに類		いせえび、ロブスター	×	○	ND	0.95 0.85	ND	交差性あり	約90%以上	検出	
7135 かに類			○	○	64.7%	0.90以上	ND	交差性あり	約90%以上	検出	
7136 その他の甲かく類	71361 しゃこ類	しゃこ	×	×	21.4%	0.93	抑制+/-	ND	約90%以上	検出	検出せず
	71362 あみ類				ND	ND	ND	ND	ND	検出	検出せず
	71363 おきあみ類	なんきょくおきあみ	×	×	26.7%	0.93	抑制+/-	交差性あり	約90%以上	検出	検出せず
	71369 他に分類されない甲かく類	かめのて		×	×	ND	0.91	抑制+/-	交差性あり	ND	検出
みねふじつぼ			×	×	ND	0.90	抑制+/-	交差性あり	約55%(アワビ類75-80%)	検出	ND
7131 いか類					17.5%	0.75	ND	交差性あり	約60%	検出せず	検出せず
7132 たこ類					20.3%	0.75	ND		約60%	検出せず	検出せず